

才2回 連続紅祝講演会

『組織労働者の現況』

京都労働運動研究会主催の連続講座才2回は、4月19日に開かれ、連続講座才3回は、才1回「労働組合運動の再編」の日本労働運動全体の「果しない崩壊過程」が全国的に進行している状況をふまえて「京都地域労働組合」結成をめぐってこの連続講座に参加している各職場の労働者の報告と、新たな労働運動を進める為、具体的な諸問題について討論がかわされました。とりわけ、日常的につき当り、あるいは、その突出口を見出すべく、官公労、公務員、民間の活動者の鮮明な問題提起があり、今後の討論の中を導いていく方向が確認されました。以下は討論の内容です。

「国会——日本は、各々が現在労働組合運動において直面している問題について話し合いたい。」

A——繊維関係について。京都の繊維業界では、二三年前から企業の再編が行われている。即ち企業のグループ化、大資本への系列化、合併が進んでいる。繊維業界では加工費が切り下げられている。ナイロンの染色では三年前より五〇〇円下がったが、現在では三〇〇円だ。アクリルでも四〇〇円から一八〇円〜二〇〇円に。染色費はギリギリの線まで切り下げられている。経営者はこれ以上下がることはない。今後はあるだろうと言っている。なぜかのように、たのな。世界の化学繊維は日本で60%を占めている。(木37%、日26%)。東洋アミアは日本の主要な繊維産業は全部進出している。日本は東洋アミアの80%を独占している。経営者は、企業の体質改善、設備の近代化、生産の集約化、再回化、新製品の開発、市場開拓、企業間関係の合理化、合併、グループ化の推進、垂直関係の強化

杖です。

——司会——全体からの報告がなされたと思ひますので討論を行つていきたいと思ひます。

——ん——私は「オニ・オニ」の小西を、京都行動委員として位置づけ、今は相手側にぶんどう求めているのを取返すという運動である。私は元自紅隊であるからよくわかる。自紅隊でも労働組合も同じことを言う。

N君がやめるとなつたとたん、長い間、執行委員をやつていた人が説得を始める。その内容は「外へ行つたら苦しいぞ。甘くないぞ。きびしいぞ。生活がかかつて

いるぞ。うちの会社の方がもっといいぞ」とか。生活をぶつつけてくる。ぼくが自紅隊をやめると叫んだ時、お前ら、シヤバへ行つたらきびしいぞ、のたれ死にさせるとか、カマをかけた。たいていの自紅隊は、すぐにでもやめる気を持っているが、これでやめられない。自紅隊の幹部がさうならまだ判るが、労働組

合の幹部がなぜ生活のことでおどしをかけるのか。その

生活が悪いから斗っているのだ。反帝労組の場合は、絶対に生活があるんや、なんでもわけてはいけない。生活がかかつているから斗うんや、斗いそのものを生活化していく団結が必要だ。生活を守る為には、行動隊とケンカなんか出来る筈がない。家庭的団結というか、同志が飢え死にしかかつていないのを見捨てることは出来ない。

——J——一人が守れなければいけないと云うことだ。N君のことは驚ろきだった。今の組合でまともになつかぬものがある。自分も含めて。いふのだなあと……自分も含めて。

——N——自分ではそう思つていなくても、皆のうちに吞まれて了う。自分の主張には彼らも乗越えるものがない。それではお前、どういふ観点で云つてゐるのかと云われた時に、自分の責任で意見が出てこない。すると自分が云いたくないのに云つてゐるようでは、罪行的な行為だ。いふのではないかととられる。

古い人と一年づつ交代する人とほくら二、三年の人の新進地との関係。二つは一つの企業だけでは片づけられないような問題が具体的に大きくなつてきていると云う事。三つは労働力の流動が激しくなつてきている時の差別だけの結集はどうか。変ればものもくあみという意味での地域的結集の意義。四つは、選挙する人の内容と分裂してない統制系の組合とは全く同じであ

トJ——一般状況だ。労働組合だけの問題ではない。それに労働組合がマヒしてしまつてゐるのだ。

——N——執行委員自体が斗争が終つた後に、何もなかった様に感じてゐる。それが本当の運動なのか。そうではないと思う。賃上げだけで一万一千円と云うのが六千円に落ちるが、運動の質は、それではないという事だ。

——J——だいがスツキリして来た。一つは根拠地と前進基地との関係、二つは一つの企業だけでは片づけられないような問題が具体的に大きくなつてきていると云う事。三つは労働力の流動が激しくなつてきている時の差別だけの結集はどうか。変ればものもくあみという意味での地域的結集の意義。四つは、選挙する人の内容と分裂してない統制系の組合とは全く同じであ

る。日共の組合で何が出来るかは具体的な場で考えねばならない。日共の組合で何が出来るかは具体的な場で考えねばならない。日共の組合で何が出来るかは具体的な場で考えねばならない。

つていたのでは階級斗争はないだろう。組合は、統一したら強くなるのではなくして、運動が統一をみだすのであつて、それはいつも分裂過程を経なければだめだということ。日共の学生運動に対する批判は、自分の労働者としての生きざまを根柢からえぐり出すにふさわけてゐる。これは今後、我々の組合の中へ気をかけねばならない問題だ。この中でも前紅組に入つてゐる人がいるとすると、内部カッターがなければ、おかし

し、組織的にもおこめるのではないだろうか。組合員の活動を組合の活動はマツ救してゐる。従業員と組合員の関係では、従業員組合の幹部はやめる人を引きとめる。これは会社の要請なんだから。暴力問題は徹底的にやわねばならない問題だ。大学の職員の人から出てゐる従業員料はもっと上げよと要求してゐるのではないか。ま

な気がする。ないという実証はない。組合の中で活動している連中は、最初は一度は砂川などへ行っている。外へ出てこれはいかん、なんとかしようとしているのではないか。市民化の徹底と労働者の徹底を自分の中では引きよかれてもらわなければならないのではないか。

— ん — 労働者は革命の母体になるかならないか、わからなくても侵略の母体になる。

— J — それは間違いない。

— ん — だから反帝の質はそこだと思つて。

— J — 労働者はバラ色にえがかれて来ている。労働者は資本の手先になって殺し合ひまですることをふまえたなら、逆に革命の母体になるという弁証法が成立するのかもしれない。

— O — オレの斗争の時、ヒケはった奴をなぐれなかつたことを思い出す。

— J — 我々は日常的に労働歌を歌えない。たまに歌っているのは、われらとわれらの祖先が守り育て

描けない。

— J — I君の言ったおちよくるという事は大したものだと思う。

— F — 朝日ジャーナルで競んだが、60年を引つた三世の労働者が市民運動にのり出してきているという。戦時中に囚人が炭鉱で囚人同扱いされず、おむぎと殺されていく。これをとらえ、囚人の無縁仏を振り出す市民運動を始めているという。今後の運動の方向として、もう一度、根柢から囚人の問題も階級的にとらえなおすことは重要だと思つて。

— ん — 例えは電通がベトナム反戦斗争をするとき、統帥からおりてくる情勢分析を使うのではなく、電通独自の情勢分析の中から、通信回線が自紅隊に使われているなど、ベトナム反戦の方向性が出てくると思つて。

— I — 先ほど出た労働組合が一人の労働者のクビを守れないという事は、問題にしなればならない。斗争で本当にいる時にはちよつとも出さない。労働組合幹

神總よ、だ。まさに逆のことを歌っている。何故、歌えないかというところ、資本対労働と階級を裏一つにわけた歌詩しかない。本当の問題は、我々の中まを食いつぶしている資本である。労働者間の闘いというのが仲間同士の階級斗争が基本になるような組合をなればいかん。なぐらふあかん。断固とした党派斗争になる。流行歌やフキーソングはみごとにとらえている。

— ん — ただブルジョア的に集約しているだけだ。我々は自分で新を創製といったこともないのに皆がつけてくれただけだ。この差は、今の情勢をどこまで正しくつかんでいるかだと思つて。その意味では生れたばかりの子供の方が新を習まだ。

— J — そこまで環元して、そこからどう組み立てるかに徹せねばならないと思つて。その時、大状況の論理はすごい助けになる。

— ん — 組合の些細な新聞を出すにしても、マンガ一つ画くにしても「戦旗」ぐらい読破しておかないと

部の握束は役員になるか労金の理事か、主協の理事が最高の生虫になっている。

— ん — 組合の幹部は、金さえあれば斗争に勝つというが、これは信じられない。金がないから斗争するの。あれは斗争出来るというのはまちがいだ。

— K — 金が必要というのは賃金カットに対する保障ではないか。斗争の内容を自分でつかみとったら金なんていらぬのが労働者ではないか。

— J — その通りだ。

— G — 労働者は労働者のクビを守るどころか、企業より先に統制処分をかける。

— O — 資本の会社防衛と労働者の生活を守るということがイデオロギーとして一致する。

十の願

紙はややく買える所を毎存貯の方が
いましたら、お知らせ下さい。

